6 物語3

単元のねらい

◆音読する、平曲を聞くなどを通して『平家物語』特有の表現を味わう。
◆軍記物語の文体の特徴について理解する。
◆物語に描かれた人物の心情を深く読み取る。
・文字を読むだけではなく、琵琶法師が「声」で語り伝えることで広まった「平家物語」を、平曲を聞く、音読することを通して、特有の表現、調子を味わう。
・軍記物語の文体の特徴である和漢混交文について学び、歴史的な文体の変化について理解を深める。
・「木曽の最期」を脚本化することで、登場人物の心情を深く読み取る。
軍記物語の最高傑作とされる「平家物語」に描かれた戦いの様相と、戦いにおける登場人物の思いや考えを読み取り、特徴的な文体について理解することをねらいとしている。

単元の構成

「平家物語」より、「木曽の最期」を取り上げた。「木曽の最期」は、これまで学習してきた教材に比べて長編だが、登場人物の心情に心を揺さぶられる屈指の名場面である。参考「祇園精舎」では、ＱＲコードを読み込んで平曲を聞く、暗唱させるなどで、美しい文体を味わうことができる。
「古文を読むために6」では、「平家物語」にも頻出する敬語、音便について、説明している。古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりについて学習できる。

「古文の窓５　和文と和漢混交文」では、和文と和漢混交文の違いについて解説し、古典文学の文体とその多様性に目を向けさせる。

「単元の言語活動６　人物の心情を想像して「木曽の最期」を脚本化する」では、作品を脚本化し、実際に演じてみることで、登場人物の心情を生き生きと想像することを目的とする。また、本文を理解する際に、文章の意味を解釈するだけでなく、演劇などの様々な形態で再生産することが可能であることを学ぶ機会ともなる。